

キャラクター名
蝶野正影(ちょうの まさかげ)

プレイヤー名

シンドローム	ソラリス		ワークス	UGN支部長A	カヴァー	研究者
	ソラリス					
オプション			年齢	32	性別	男
覚醒	犠牲	衝動	加虐	初期侵食率	31	%
出自	資産家	経験	心の壁	邂逅	慕情	

	基本値	ワークス	ボーナス	成長	他修正	能力値	HP	24
肉体	0	1	0			1	行動値	4
感覚	0	0	1			1	(非装備時)	4
精神	2	0	0			2	戦闘移動	9
社会	6	0	0			6	全力移動	18

肉体			感覚			精神			社会		
技能	SL	修正	技能	SL	修正	技能	SL	修正	技能	SL	修正
白兵	1		射撃			RC			交渉		
回避	1		知覚			意志			調達	1	
運転:	2		芸術:			知識:			情報: UGN	1	
運転:			芸術:			知識:			情報:		
運転:			芸術:			知識:			情報:		
運転:			芸術:			知識:			情報:		
運転:			芸術:			知識:			情報:		

武器・コンボ	能力	命中値	G値	攻撃力	射程	メモ
戦乙女の導き(<80)	RC	2r				ダイスを+3,攻撃力+5
狂戦士(>80)	RC	2r				C値を-1(下限6),ダイスを+[Lv*2]
英雄作成(>80)	RC	2r				ダイス+[12+4]個, 攻撃力+5, C値-1, 侵食値+7
英雄作成Ex(>100)	RC	2r				ダイス+[14+5]個, 攻撃力+5, C値-1, 侵食率+7

防具	価格	装甲	回避	行動	メモ
レザージャケット		2			

所持品	
レザージャケット	
コネ:要人への貸し	
コネ:UGN幹部	
調査費用	

合計装甲: 2 合計回避: 0

ロイス				
対象	感情(pos)	感情(neg)	ダイス	消費
起源種	P	N		
父親	P 親近感	N 悔悟		
姫宮由里香	P 執着	N 隔意		
ブリュンヒルデ	P 感服	N 脅威		
極楽麦人	P 執着	N 不快感		
雪風	P 好意	N 不快感		
春日恭二	P 感服	N 憎悪		

最大財産P: 14 残り財産P: 5

スキル名	SL	コスト	タイミング	射程	対象	判定	制限	メモ
ワーディング	★	-	オート	視界	シーン	自動	-	
効果:	非オーヴァードのエキストラ化							
リザレクト	0	1d10	気絶時	-	自身	自動	↓100	
効果:	コスト分のHPで復活							
盲目の羊	1	3	オート	至近	単体	自動	-	
効果:	判定ダイスを-[Lv+1]個する。1ラウンドで1回まで。							
タブレット	1	2	オート	至近	自身	自動	-	
効果:	Iフェイトの射程を視界に変更。1ラウンドにLv回まで							
奇跡の雫	1	6	オート	視界	単体	自動	100%	
効果:	HPを[Lv*5]回復して蘇生, 1ラウンドに1回まで。							
帰還の声	1	6	オート	視界	単体	自動	ピュア	
効果:	Iフェイトの使用回数を1回復, 1ラウンドに1回まで。							
女王の降臨	2	5	セットアップ	至近	自身	自動	ピュア	
効果:	Xジェンカフ難易度:自動のIフェイトを1回使用できる。1ラウンドにLv回まで。							
アクセル	5	3	セットアップ	視界	単体	自動	-	
効果:	行動値+[Lv*2]							
狂戦士	5	5	Xジェン	視界	単体	自動	>80	
効果:	判定ダイス+[Lv*2], C値-1							
ポイズンフォッグ	1	2	Xジェン	至近	範囲	-	-	
効果:	Iフェイトの射程を至近, 対象を範囲に変更(シナリオでLv回まで)							
戦乙女の導き	3	2	Xジェン	至近	単体	自動	-	
効果:	判定ダイス+Lv個, 攻撃力+5							
	★							
効果:								
効果:								
効果:								
効果:								
効果:								

蝶野正影(ちょうの まさかげ)

UGN所属のソラリスのピュアブリード。普段は研究者として活動している。

親が資産家のおぼっちゃん。その財力で世界に拡散した起源の一部を入手。研究欲から、むしろ自分からウィルスに感染しに行った変人。肉体があまり変化しなかったのには少しガッカリしている。(Dロイス)

彼を一言で表すならマッドサイエンティスト。趣味は新しい薬の開発。実際に役に立つものは稀。完全に蝶野の思い付きである。「スープを作ってみたんだが、味見をしてくれないか?」

コードネームはキングメイカー。彼の薬を飲めば誰でも英雄になれるとのこと。「さっき飲ませた薬の副作用?そんなのこれから見るに決まってるだろう。」